

JOURNAL OF YOKOHAMA YACHT CLUB



NO. 15 MARCH 2008

社団法人 横浜ヨット協会

Established in 1886

目 次

I. 理事会だより

- | | |
|----------------|----------|
| 1. 2007年を振り返って | 理事長 松浦孝志 |
| 2. 総務委員会便り | 佐治秀雄 |
| 3. 施設委員会便り | 阿久津壽 |
| 4. 財務状況報告 | 横田道生 |
| 5. 行事報告 | 市毛敬之 |
| 6. 広報委員会便り | 砂原一夫 |

II. 2007年の活動

- | | |
|---------------------------------------------|----------------|
| 1. 横浜市長杯参戦記！？ | HIRO 大庭雄二 |
| 2. 2007年 PRONTO チームレース参戦記 | PRONT 石川俊雄 |
| 3. 「2007年 YYC 市長杯優勝」
……レースの内容・忘れちゃいました！！ | U・LA・LA 水巻新次 |
| 4. 夏季クルージングの思い出 | Fresca クルー 飯野学 |
| 5. 水上学園の生徒さんからのお便り | |
| 6. YYC 家族通信 | HIRO 山崎弘子 |
| 7. 2007年
YYC レースセールトレーニング総合成績 | |
| 8. 編集後記 | 広報委員長 砂原一夫 |

2007 年を振り返って

横浜ヨット協会
理事長 松浦孝志



YYC にとって本年も大きな事故や事件など無く平安に経過しました。これも皆様のご協力のお陰と感謝しています。

昨年は YYC 設立 120 周年の節目の年であり、記念事業として記念式典を行い、多くの方々に御参集いただき、おおいに本会の存在をアピールできたと思います。また記念事業の一環として横浜市長杯を予定していましたが、悪天候の為レースは中止し、懇親会のみ実施しました。本年は昨年の方も取り返すつもりで、第 2 回横浜市長杯レースが実施されました。東京湾より多くの参加艇を得て充実したレース、懇親会がおこなわれました。

今年は猛暑であり、その影響か台風が横浜を直撃し、近隣のハーバーでは多くの被害が出たようですが、YYC では軽微な損害ですみました。市民ヨット教室、クラブミーティング、体験乗船会、講習会などの事業も問題なく実施されました。すべての事業が順調に実施できたのも各事業担当者、関係者の尽力のたまものと心から感謝いたします。

最盛期には 100 名を超える会員を有した YYC も現在では 40 余名の会員に減少してしまいました。若者のヨット離れ、趣味の多様化、経済状況などが原因かと考えられますが、今後 YYC が活動し、発展する為には会員増が欠かせないことと考えています。地域にとって身近で親しみやすい YYC になってゆくことが必要です。

また、5 年後には公益法人の制度改革があり、YYC もその改革に沿って変革してゆかなければならず、理事会を中心として特別委員会を構成しその準備と情報収集をしています。

今後とも YYC が発展するために、会員をはじめとして関係者各位のさらなる協力が得られますよう理事会運営を勤めてまいる所存です。

2008 年が YYC にとっても皆様にとっても良い年でありますようお祈りいたします。

総務委員会便り

総務委員 佐治秀雄

総務委員会は会員の皆様が快適なクラブライフを過ごしていただけるよう庶務全般を担当しています。

守備範囲が広い事から私一人では行き渡らない事が多く、拡大委員として寒河江さん、小畑さんにもご協力いただいています。

今年度の主だった活動の一端をお知らせいたします。(通常の庶務、職員労務管理等などは除いています)

まず保存されていた膨大な書類、資料の整理を行いました。

クラブハウスのリニューアルに伴い格納場所の無くなった大量の書類はヤードの片隅に野積みされていましたがこれらのすべてに目を通し精査の上保存する物と廃棄する物を選別しました。その結果保存すべき物の中からは協会設立や歴史に係る貴重な資料、過去の会員名簿、不動産関連の書類等々、後世まで引き継ぐべき大切な物が多々発見されました。その中で特に重要なものは貸金庫に保管して万全を期すとともに会員の方の閲覧が可能なように目録を用意してあります。また事務局には冬季の休閑期を利用して全保存資料の整理、ファイリングを行うよう指示いたしました。

昨今のIT時代に対応するために無線LANを構築しました。

これによりYYC敷地内でのインターネットへの接続が常時可能となりました。例えばポンツーンに係留した状態やヤード上架中の艇内にもメールのチェックやインターネットへ接続できますので是非ともご活用ください。

利用にあたっての必要なパソコンの設定事項は事務局にお問い合わせください。不正使用およびいたずら防止のため利用対象は当協会会員のみとしています。信頼できるクルーに使用させる事を妨げるものではありません。使用させるか否かは各会員の責任で判断下さい。

今後の課題としては当協会の立地からして特に夜間および休業日のセキュリティに何らかの対策が必要かもしれません。

より良い協会運営のために今後とも皆様のご意見、アイディア、要望、苦情、助言等をお待ちしています。



施設委員会便り

施設委員 阿久津壽

今年は大きな施設の修理や改善はありませんでした。しかしながら、台風の直撃が何回もあり、理事会では台風対策が話題になりました。艇の固定はそれぞれの会員が行う事になってはいますが、実際には、台風接近に際して、艇の固定を事務局が行っております。ついでに、事務局の作業時間短縮のため、固定用のロープの準備を、各艇にお願いする事と致しました。おかげさまで、会員各位のご協力のおかげで、来年の台風シーズンには万全の台風対策が出来るものと期待しております。



財務状況報告

財務委員 横田 道生

2007年度はまだ期中であるために、先の総会で既に報告済みの2007年3月末締め2006年度決算報告の概要について報告します。

なお、公益法人の決算報告書が事業活動の収支を主体とする収支計算書中心から、正味財産の増減を主体とする正味財産増減書に替った為、これにもとづいて説明します。また、解り易くするために、科目を一部簡素化しました。

06年度の正味財産増減（収支）は、経常収益（収入）2449万円、経常費用（収出）2910万円、正味財産増減（収支差）-461万円、となっています。従って、07年3月末の正味財産残高は前年度末より461万円減少し40004万円となりました。従来の収支計算書で言う、事業活動収支では404万円の黒字ですが、正味財産増減書では、経常費用（収出）に建物・機材等の財産に対する減価償却費695万円並びに退職給付費用170万円の合計865万円が組入れられるために、正味財産は461万円の減少となりました。（単純化のため指定正味財産と一般正味財産間の振替は相殺省略した）

経常収益（収入）2449万円の内訳は、艇保管料収入1337万円（54.6%）、会費301万円（12.3%）、イベント収入242万円（9.9%）機器装置使用料176万円（7.2%）入会金126（5.1%）会員外使用料104万円（4.2%）その他163（6.7%）となっています。経常費用（収出）2910万円の内訳は、管理固定費（人件費・減価償却費・退職給付費用・保険料等）2232万円（76.7%）、管理変動費（水道・光熱・消耗品・燃料213万円+修理・修繕費78万円）291万円（10%）、イベント収出387万円（13.3%）です。

正味財産40004万円の内訳は現金預金・貯蔵品等の流動資産3186万円、土地・建物・艇揚降運搬機等の固定資産27143万円、建替引当・購入準備・修繕改修積立等の特定資産9723万円、未払・前受金等の流動負債48万円となっております。（退職給与引当、艇預り保証金は資産と負債で相殺省略した）

06期の財務の現状は、経常費用（収出）のうち固定管理費2232万円に対して固定的な経常収益（収入）は会費+艇保管料の1638万円しかなく、不安定な財政状況となっています。また、イベント費用の収支は、06年度に120周年記念事業があった事もあり、-145万円の赤字になっています。

公益法人と言う立場ではありますが、財産を目減りさせることのないように運営して行くためには、苦労はありますが会員の増員、艇保管場所の空きを無くす努力をすると共に、部外者の利用を含め施設・機器装備の使用頻度を増大させていくことが必要です。

皆様、YYCを活性化させるためにも、夏冬を問わず土曜・日曜そして平日と大いに海原へ船出しましょう。



行事報告

行事委員 市毛敬之





広報委員会便り

広報委員 砂原一夫

2007年の広報の仕事は、市長杯レースの広報活動に始まって年末パーティーで終わった一年でした。その他に「ホームページへの掲載情報の迅速化」や「舵誌へのレース結果の掲載」の実現など成果が出た年でした。

反面、ホームページへのハッキング攻撃で掲示板がたびたび機能停止に追い込まれました。ホームページの管理運営をクルーのボランティア活動に頼っている現況では迅速な防御が難しく、どうやって改善してゆくかが2008年の課題として残りました。

今年も会員の皆様への広報活動に努力してゆく所存です。よろしくお願いいたします。

横浜市長杯レースでBクラス優勝したから原稿を…とご要望をいただきましたが、レース中は周りを見ることもなく、ずっとセールトリムしていた私には、各艇の動き等を把握しているはずもなく、細かいことを書くことが出来ませんので、レースについての詳細ではなく、自分のヨットへの関わり方から見たレース参戦記とさせていただきます。



横浜市長杯Bクラス優勝という快挙!?!は、私自身、本当に驚きました。今年の3月に梅澤さんから艇を ~~無理矢理買わせ~~ 譲っていただき、5月から始まったセールトレーニングにさえ最初はエントリーせず、まずはセールトレーニングに参加出来るように練習しようと思っていたのですから、横浜市長杯レースという大きなレースに参戦することなど、考えてもいなかったのです。

ところが、第1回セールトレーニングの朝、YYCに着くと、梅澤さんが、まだエントリーに間に合うからとセールトレーニング参加を勝手に決めてしまったのです。一週間前の日曜日にはクルーのみなさんに「セールトレーニングに参加できるほどの練習もしていないし、エントリーしません」と言ってましたし、私自身が心の準備もしてなかったのですが…。

これがHIROのセールトレーニング初参加となりました。それからは毎回セールトレーニングに参加させていただき、横浜市長杯レースにも参加させていただくことになりました。そう、参加させていただくであって、入賞出来るなどとは、考えてもいなかったのです。

レース当日。ポジションは、ヘルム井上さん、メイン梅澤さん、ジブ&スピン大庭、アシスト和泉さん、ピット山崎、バウ鎌田さん、アシスト稲葉さん。

井上さんの舵取りは抜群で、良いスタートを切りました。



前日からレースを想定した練習を一生懸命していたHIROクルーは、全員、ノーミスでとてもスムーズな動きを見せ、クローズもランニングも全部、気持ち良く走っていました。よそ見をしている余裕もなく、ずっとセールトリムしていた私も、気持ち良く走っていることだけは分かってました。

フィニッシュ後YYCに戻ってくると、他の艇のみなさんから「速かったね」というお言葉をいただきました。自分としては、気持ち良く走れていたことは分かっているのですが、ずっとセールを見てトリムしていたため、他の艇と比較して速いとか遅いというのをほとんど見ていないので、実際のところ、どの程度の順位なのか、まるで把握しておらず、「速かったね」というお言葉に、正直言ってあまり実感がありませんでした。

そして、結果発表のとき、Bクラスで着順1位、修正1位という成績を聞いて、本当に驚きました。まるっきり予想外の結果だったのです。

わけが分からないまま壇上に上がり、優勝カップをいただいたときは、嬉しいというよりも戸惑いのほうが大きく、正直言って頭の中が真っ白になっていました。

自宅で改めて優勝カップを見て、やっと実感できたというか、嬉しさが込み上げてきました。

助っ人の井上さん、和泉さん、梅澤さん、とても素晴らしい仕事をいただきました。

クルーのみなさんの動きもとても良く、チームワークという総合力でいただいたBクラス優勝です。



みなさん、本当にありがとうございました。

HIROとしてスタートしてから、ほぼ毎週のように出艇し、レース前日にはレースに向けての練習をし、一生懸命努力したことが良い結果へと繋がったように思います。

まだまだ経験不足のため、これからも可能な限り毎週出艇して練習し、セールトレーニングやレースに積極的に参加していきたいと思います。

昨年4月の第25期クルーザーヨット教室に参加し、梅澤さんのETUIに乗せていただいたのが、私の人生初ヨットでした。最初は何もかもが分からないことだらけで、頭で覚えること、経験して覚えること、怒鳴られて覚えること(?)がたくさんありました。

それから1年足らず、まだまだ覚えなくてはならないことがたくさんある状態でオーナーになり、横浜市長杯レースでBクラス優勝という結果を残せたことは、今後のヨット人生でも、とても思い出深いものとなるでしょう。

前述のように、私は梅澤さんにヨットの楽しさと厳しさを教えていただきました。そして最近、梅澤さんは、ヨットのより深い楽しさを教えてやろうと色々動いてくださっているのがとても良く分かります。怒鳴られっぱなしで嫌になることもありました。今では、とても良いオーナーのところに配艇されたと感謝しています。

この場を借りまして、梅澤さんにお礼申し上げます。ありがとうございます。

HIROは、第25-28期ヨット教室の生徒で構成されたヨット初心者の集まりです。分からないことが多いだけに、何でも貪欲に楽しもうと思っています。「楽しむことに積極的になること」＝「色々な経験をして経験値アップすること」であると考えていますので、これからもきっと、たくさん楽しみ、たくさん経験をさせていただくことになるでしょう。

諸先輩方には、これからも色々ご指導いただきたいですので、お時間があるときには、是非、お声をかけてください。思い切り楽しませていただきます。今後ともよろしく願いいたします。



2007年 PRONTO チームレース参戦記

石川俊雄

早いもので PRONTO チームで、レースに参加するようになり、1年が過ぎレース参加回数もベイサイドマリーナで行われる Y26Ⅱ会を含めると 19 回になります。これだけ多くのレースに参加したにもかかわらず、優勝することが出来たレースはベイサイドマリーナで開催されたファーストステップレースに Y26Ⅱで参加した 1 回だけでした。特に 2007 年前半のレースは船に慣れていないこともありマーク回航のときに等にドタバタし後ろから来た船に抜かれることも多々ありました。

残念なことは 7 月 15 日に行われる予定の相模湾オープンヨットレースが台風で延期となり横浜市長杯ヨットレースと重なり参加できなかったことです。相模湾オープンヨットレースはジェリーフィッシュ (Y26Ⅱ) で 2000 年から 7 年間連続で参加しオープン B クラスで 2 位が 2 回、3 位が 1 回と表彰台に縁のあるレースでした。



対外レースの結果はあまりよい成績ではありませんでしたが、2007年 YYC セールトレーニングで年間優勝出来たことは、多くのレースに参加することにより、船にも慣れてきた結果だと思えます。2008年は船のポテンシャルを100パーセント引き出せるよう練習し、参加するレースすべてを優勝する意気込みで頑張りたいと思います。最後になりましたが、参加したレースを運営された皆様に心より御礼申し上げます。

「2007年YYC市長杯優勝」……レースの内容・忘れちゃいました！！

U・RA・RA 水巻新次

2008年1月20日 YYCにて「去年、YYC市長杯、優勝したよね？ 原稿書いて！！」と砂原さんから声を掛けられ「いいっすよ！！」と安請け合いしたのはいいが、半年も前の事……どんなスタートをして、どんな内容で優勝したかは……はっきり言って覚えていない。うーん困った。どんだけ記憶をたどっても……例によってヤキソバを焼いた事、優勝カップを松浦理事長（以下松浦さん）からもらい抱き合った事……それぐらいが精一杯で、レース内容はやっぱり思い出せない。そこで、前回の寄稿ではヨットで一番印象に残る幻想的な出来事を書かせてもらったので、今回は一番印象に残る怖かった出来事を書こうと思う。



それは、数年前の事……毎年ゴールデンウィークに開催されるミドルボート選手権が最終日、強風のため中止になり、強行突破して横浜まで回航した時の事だった。メンバーは、甲南大OBメンバー3人と僕の4人だった……。それまでも、このシリーズレースの最終日、強風のため中止になり、横浜まで回航した事が何回かあったので、無論「強行突破」という気持ちは特に無い。（まあ三崎を通過して剣崎まで我慢すれば後はランニングだけだしメインを揚げずにNo.4 だけなら）という安易な気持ちでシーボニアを出航する。

防波堤内でNo.4 を揚げるが、少し防波堤を出るとすぐにあの場所特有の南西からの間隔の狭く凄い高さの波が ULALA に襲い掛かる。油壺に入港してくる目の前のヨットが一つの波でマストさえも見えなくなる。明らかに今まで体験したものとは違う波の高さに翻弄され、防波堤内に引き返す。「No.4 だけではあの波は超えられない。No.4 を降ろしてワンポンメインを揚げよう」と乗艇メンバー全員が何の疑いもなくその作業にかかる。表彰式参加のためシーボニアの防波堤で出航を見守る松浦さんが心配そうに見ていたが、作業を終え、いざ荒天の海へ ULALA は出航する。誰から言うでも無く自然に、皆、ライフジャケットをいつもよりしっかりと着用する。

エンジンスロットを全開にして、ほぼ真正面から来る波の壁をやっとの思いで越える。おそらく最大風速 40 ノットは越えていただろう、波頭は強風で飛沫（しぶき）、見渡す限り白い海となっている。気持ちの中では（これヤバイなあ）と思っけていても、乗艇メンバーの中では一応僕が責任者である。わざとくだらない事を言って平然を装うのが精一杯、今考えると、おそらく緊張感みなぎる顔になっていたに違いない。シーボニア沖の網をかわして、スターボートタックになり三崎港に何とか入港する。三崎から剣崎まではアビーム近いので、そこでメインを降ろし、No.4 だけを揚げていれば……。後から考えればそうなるが、それをすること自体考えなかった程、頭の中はパニックしていたのだろう。無論どこかの港に避難する事なんて事は、これっぽっちも考えなかった。ワンポンメインを揚げたまま、静かな三崎港内を通過し、剣崎まで左に定置網を気にしながら白い海を爆走する ULALA。その横を一艇のヨットが通過するが、この強風の中、他のヨットがどんな走りをしているか、なんて興味はない。

ULALA がただ無事に YYC に入港する事を祈っている。右前方に目をやると浦賀水道を航行する本船が 2~3 艇、大きく頭を上下に振られながら走っている。それでも何とか剣崎をかわせば、残るは「楽々サーフィングだぁー」あと少しの我慢と自分を励ます。剣崎を廻りこみ、サーフィング。アシカ島あたりまでは、気を許すとブローチングをしてしまうが、それでも、まあ走れなくはない。数回ブローチングしながらも、このまま何とか帰れるだろうと……。甘かった。観音崎辺りから、またさらに風があがったのだろう。いよいよ、まっすぐに走るのが困難になる。何度も何度もブローチングを重ね、切り上がった状態から船体を下に向けることができなくなる。大きなうねりの中で、ULALA はまさしく、翻弄している。そこで初めて、メインを降ろそう！！と言うが、既にエンジンだけでは風上に向けることさえも不可能で無論メインセイルを降ろす事さえできない状態。波のタイミングを見計らってなんとか下すが、またすぐにブローチング。それを何度も繰り返す。皆、無言でうすら笑顔をしているが、目がマジ。その頃になるとワンポンラインより下のフットの部分が少し裂け始めるが、どうする事もできない。「松浦さん、ごめんなさい。けど仕方ないのです。」と心で謝り、走らせ続ける。

観音崎を超え、猿島、八景島を左に見ながら、ブローチングを重ねながらも何とか YYC に近づいている。見える限りの海上でヨットおよびモーターボートは存在しない。しかし金沢沖まで来ると、本船が何隻も停泊している。それを避けなければならない。大海原ならブローチングしてもあまり問題はない。また、通常なら、停泊している本船をかわすのに 10m も離せば充分だろう。しかし 300m 間があっても気が抜けない。気にすれば気にする程、近寄ってくる。そして本船脇でブローチング。磁石に吸い寄せられているのでは？という錯覚を覚えるほど、翻弄しながら ULALA は停泊している本船に近寄る。数回、下そうと試みるが切り上がってしまう。それでも、あと数メートル（実際にはもっとあったと思うが）という所で、ULALA は下へ向いて、また走り出す。そんな事を 2~3 回繰り返す、何とか根岸港に到着する。港内でフット部がボロボロになったメインを降ろし、すっかり忘れていた煙草を手取るが、案の定、ぐちゃぐちゃで吸える様な状態ではない。

ハーバーに到着して上架してもらい、心から安堵した。(良かった・・・無事に帰れた・・・)。メインは無事ではなかったが……。 (松浦さん、ごめんなさい (再))。ハーバーマスターの鈴木さん始め、ハーバーにいた方々が「大丈夫だった!？」と声を掛けてくれたが、「大変でした」と言うのがやっとなで、それ以上話す気力、体力はなかった。

これが、僕のヨット経験の中で一番怖い出来事です。

もちろん、YYC ツワモノ先輩の方々は

「そんなの甘いなぁ〜」

「外洋はそんなもんじゃないぜー!!」

と思われるかも知れませんが、僕の経験はそれ位です。

でも今後は、これ以上の怖い経験が無い様、楽しくヨットライフを送って行きたいですっ!



夏季クルージングの思い出

Fresca クルー飯野学

はじめまして、Fresca クルーの飯野です。昨年秋にヨット教室を受講し、その後晴れて Fresca のクルーとして迎えていただきヨットを楽しんでいます。

さて僕は、今 2 枚の写真を見ています。1 枚は、小学 6 年生の時に撮った野球少年だった頃の写真。6 年間続けた少年野球最後の年。有終の美を飾ろうとチームメイトも監督・コーチそして父兄も皆熱くなっていた。その夏休みは、毎朝練習を行い、監督・コーチも出勤前に指導をして下さった。いつも通うグラウンドへの風景が、その夏だけは新鮮に見えた。夢中だった。そして、試合は残念な結果に終わったけれども、夢中で野球に打ち込んだあの夏は、今も忘れられない大切な思い出です。

もう 1 枚が、Fresca 恒例夏季クルージングに参加した際の写真です。このクルージングは、初めて経験することばかりで、野球少年だった頃に味わったものと同じくらい印象強い夏の思い出になりました。

クルージングは 7 月 20 日から 28 日まで行われました。20 日 22 時 50 分、Fresca は新島へ向け YYC を出港した。僕は初めてのナイトクルージングに興奮気味。最初のワッチは砂原オーナー、ヨット教室同期の M ちゃん、僕の 3 人。いつも見ている横浜の景色が全く違って見えた。根岸の製油所が何とも幻想的に見えた。そして、船は約 7 ノットで新島を目指す。この速度はいつもと変わらないのに、夜間はとても速く感じた。観音崎を越えるまでこの速度が怖かった。そして外洋で見た夜光虫の美しさにこれまた同期の M ちゃん共々感動。明け方にワッチを交代し、9 時頃目を覚ますともう新島が見えていた。

新島では、砂原オーナーにシュノーケリングを教えて頂いた。初めてのシュノーケリングに戸惑いながらも気がつく、水泳とも違うまるで海中を散歩するような不思議な感覚にすっかり虜になっていた。

また吹き江でのアンカリングも、忘れられない。舳いロープをもってトランサムデッキから海へ飛び込むのは怖かったものの、これでクルーとして少しは役に立っているのかと思うと大げさかも知れないが誇りに思えた。そして新島へ帰る際、ペラに絡まった海藻を取るために行った外洋スイムも同様に。

クルージングでは、早寝早起き、自炊。今までこんな休暇をとった事なんてなかった。

仕事の都合上 24 日で僕のクルージングは終わった。帰りの高速船は仕事で乗り飽きた新幹線の様だった。新島での生活からするとまるで早送りのようなスピードで東京へ向かう。東京へ着くと、少し呼吸が苦しかったけれど、日常生活が始まるといつの間にか落ち着いていた。この原稿を書くためにこの夏の写真を見てると改めて貴重な体験をさせて頂いた事に気づく。今までは、休暇をとる位なら仕事をしていた方が何となく安心していたし、又、せっかくの休暇も繁華街で飲み歩くか温泉旅行くらいしか知らなかった。

クルーになってもうすぐ1年。最近では、休日が待ち遠しいです。
この場をお借りして、ヨットを通じて貴重な体験をさせて頂いている砂原オーナー
及びクルーの先輩方々そしてYYCの皆様に感謝申し上げます。

新島港にて朝食



パルテノン温泉にて



YYC 家族通信



ヨットと私

HIRO 山崎弘子

「奥様からみたヨット」という事で原稿を書いてほしいとの話があり、私は誰の奥様でもないのに・・・と思いながらも、依頼を受けることになってしまいました。

皆さんご存知のようにいつも一緒にいる相方はおりますが、今のところまだ結婚はしておりません。おまけにヨットの世界に引き込んだのも私の方なので「奥様から見たヨット」という目線とは違ってしまうと思うのですが・・・その辺はご容赦ください。



YYCにお世話になることになったのは昨年4月、私がヨット教室へ（それも勝手に大庭と2人分）申し込みをしたのがキッカケでした。それから約1年半。あっという間だったのですが、いろいろなことがありすぎて、もう何年も経った様な気がします。

それまでヨットの経験のなかった大庭がヨット好きになるキッカケを与えてくださったYYC、そして梅澤さんには本当に感謝しています。最近になって大庭から聞いた話ですが、当初は嫌々ながらも私に付き合っただけでヨット教室に通ってくれたようです。当時梅澤さんのETUIにはクルーが1人もいなかった為、大庭が休むと梅澤さんと私の2人だけになってしまう状態だったのです。



クルーがいなくて（スパルタ状態で!?!）大変だったこともたくさんありましたが、何でも自分たちでやらなければいけなかった事で反対にいろいろと勉強になり、バタバタしながらも何とかやってきて、それが自分たちの自信にもなり、お世辞ではなく本当にETUIに乗ることができて感謝しています。

「ただヨットに乗ってみたいだけ」という感覚で参加していたら「やって見せてもらいながら教えてもらう」のではなく「やって覚えろ」状態のETUIでは長続きしなかったかもしれませんが、漠然とした気持ちながらも「いつか自分のヨットが欲しい」と思っていた私には、ちょうど良い環境だったのだと思います。

そしてヨット教室に通い始めてから1年足らずの頃、皆さんご存知の通りいろいろいきさつがあり、梅澤さんのETUIを買うことになり、突然ヨットのオーナーになってしまったのです！

そもそも、私が初めてヨットというものに乗ったのは小学生の頃、B & G財団の海洋スポーツ教室に参加した時でした。

当時私が参加した教室にはカヌー・カッター・OPヨットがあり、一通り教えてもらった中で一番気に入ったのがヨットだったのです。



理由は

- ・カヌーは怖いし大変

(実はカナヅチの私・・・わざと沈をして沈起こしの練習をするのは、溺れそうであつてたまらなかつたし、潮の流れでいくら漕いでも進まないどころか流されることがあるので疲れる)

- ・カッターはなかなか乗れない

(人数が揃わないと海に出られないから。セーリングカッターにしたときはOPより速く風を切って走るので、結構好きでした・笑)

- ・OPは箱舟なので滅多な事では沈もしないし、力も大して必要ない

(その後12フィートのスループ艇が導入されたのですが、こちらは沈おこしの練習も必要だったので最初に乗ったのがこっちだったら、ヨットを好きにはならなかつたかもしれません・苦笑) また小さな漁港で海も穏やかできれいだった為、とにかく海に出るのが気持ちよかつたという事も事あつたのだと思います。



子供の頃のOPヨットがキッカケで、カナヅチなのにヨットが好きになつた私と、それまでヨットにはまるで縁がなかつたのに無理矢理付き合わされたセーリングクルーザー教室がキッカケで、乗り始めて1年足らずでヨットオーナーになつた大庭。

キッカケはまるで違いますが、今は毎週一緒にヨットを楽しんでいます。

ディンギーでもクルーザーでも、また子供でも大人でも、ヨットは乗り方次第で誰もが楽しめるスポーツだと思います。

まだまだ覚えなければいけないことがたくさんある初心者ですがともどもHIROをよろしくお願ひ致します。

2007年YYCセールトレーニング 総合成績

総合優勝 PRONTO

艇名	R1	R2	R3	R4	R5	総合得点	総合順位
PRONTO	3.0	6.0	3.0	4.0	3.0	13.0	1
風神	11.0	0.5	4.0	6.0	5.0	15.5	2
ヒロ	6.0	3.0	3.0	5.0	10.0	17.0	3
アンドウサンク	21.0	2.0	2.0	10.0	6.0	20.0	4
BIG SHOT	5.0	21.0	5.0	8.0	4.0	22.0	5
波照菜	3.0	21.0	21.0	2.0	2.0	27.0	6
源	12.0	3.0	10.0	7.0	7.0	27.0	6
フレスカ	4.0	5.0	7.0	21.0	12.0	28.0	8
BRAVO RADIO	7.0	4.0	8.0	11.0	13.0	30.0	9
cimotucare	0.5	21.0	0.5	21.0	11.0	32.0	10
フィリックス	8.0	7.0	11.0	9.0	9.0	33.0	11
STELLA MARIS	10.0	11.0	6.0	12.0	21.0	39.0	12
ムサシ	9.0	8.0	9.0	21.0	14.0	40.0	13
SAMURAI	21.0	21.0	21.0	3.0	0.5	43.5	14
IO	13.0	10.0	21.0	3.0	21.0	46.0	15
U.L.A.LA	2.0	9.0	21.0	21.0	21.0	51.0	16
アンディアモ	21.0	21.0	21.0	0.5	21.0	60.5	17
ALWAYS	21.0	21.0	21.0	21.0	3.0	63.0	18
ブルードルフィン	21.0	21.0	21.0	21.0	8.0	68.0	19
のらり	21.0	12.0	21.0	21.0	21.0	72.0	20



編集後記

2007年の流行語大賞は、「どげんかせんといかん」と「ハニカミ王子」であった。「どげんかせんといかん」は宮崎県知事東国原英夫・宮崎県知事が県議会での所信表明で、「停滞のもととなった古いしがらみからの解放が必要」と方言を交えながら説いたのが始まりであった。「ハニカミ王子」は男子プロゴルフツアーに15歳8カ月の最年少記録で優勝した杉並学院高校1年の石川遼選手の愛称で、さわやかな笑顔が社会に希望を与えたのが受賞理由とのことであった。

こうしてみると2007年前半は景気回復を背景に日本社会に新たな希望が見え始めた（希望を持ちたい？）年であったのだろう。しかし2007年後半のノミネートには「(消えた)年金」、「食品偽装」、「ネットカフェ難民」と暗い言葉が並んでいる。「サブプライム問題」も2007年後半だけをとりてみれば大賞間違いなしではないだろうか。

2008年はどんな言葉が流行語になるだろうか？新聞をみると、株式の低迷も手伝って悲観論が広がっているように思える。YYCも世間の変化とは無縁でいられない。「どげんかせんといかん」の精神で乗り越えていける年としたい。

F r e s c a 砂原

JYYC 編集委員

砂原 一夫 鈴木 弘樹 菊池 恵子

Journal of the Yokohama Yacht Club	
No. 15	
発行	2008年3月1日
発行者	社団法人 横浜ヨット協会 広報委員会
〒235-0016	横浜市磯子区磯子1丁目5番16号
電話	045(751)1304
FAX	045(751)1305
http://www.yyc.or.jp	
e-mail : postmaster@yyc.or.jp	